

香取遺産

vol.
234

本命寺の寺宝と武家の信仰

本命寺は、大崎北部、水田に面した谷の一角にあります。創建は正暦年間(990~994年)、正応年間(1288~1292年)に中興開山と伝わる古寺です。

中世においては、千葉六党の一つである国分氏の祈願所であり、正中年間(1324~

1325年)には300石の寺領を誇っていました。また国分氏の居城であった大崎城に寺域が接しており、落城の際には、城内にあった妙見祠の厨子が寺内に移されたと伝わるなど、その関係の深さがうかがえます。

千葉氏は妙見菩薩を信仰しており、市内では荒北砦跡の妙見神社(香取遺産Vol.172)など、その信仰の痕跡が多数見られます。

また道教の真武神の影響を受け、長い髪を垂らし鎧を着た姿の軍神として、妙見信仰を形成していきました。

本命寺の「妙見菩薩立像」も、その例の一つです。総高39cmで、本体は桧一木造、玄武を表現する台座の亀は桧と別材を削いでいます。周辺地域に伝わ



▲妙見菩薩立像



▲男神坐像

る妙見像の容姿との比較から、室町期の製作と考えられます。その他に、「男神坐像」2軀も伝わっており、袍を着たものは榿製で鎌倉期、狩衣を着たものは桧製で室町期の製作と推定されます。ともに像高21・5cmの小像ながら、優れた出来栄の木像として貴重です。

これらは3軀とも、市指定文化財となっています。

16世紀末に国分氏が当地の支配を終えた後も、本命寺は江戸期に大崎村を支配した旗本の一入である中山三郎兵衛の帰依をうけたことが元禄7(1694)年の古文書に記されています。この中山三郎兵衛も、一説には妙見菩薩を守護神としていたとされています。

貴重な文化財とともに、武家の信仰の歴史を今に伝えるお寺です。

※「妙見菩薩立像」および「男神坐像」は非公開となっています

圓生涯学習課 ☎(50)1224